

梵字の基礎

— 石仏を深く理解するために —

加藤 幸一

1 梵字とは

梵字とは、一言でいえば古代インドの文字といえる。わが国では仏教に関する事柄に用いられている。それに対して漢字は中国の文字、仮名は漢字をもとにしてできたわが国の文字である。

梵字は、本来は古代インドの社会で古代インドの文章の言葉であるサンスクリット語を書き表すときに用いた文字で、わが国には仏教の発祥地であるインドから仏教を通して伝えられてきた。特に平安時代ころに密教とともに本格的にはいつてきた。わが国にはいつた梵字は西暦六〇九世紀頃に北インドを中心に使われていた悉曇文字といわれる梵字である。密教とは、教えがとても深く、理解するのに大変難しいとされ、呪文を唱えて行う祈禱が見られる宗教である。真言宗が代表的である。

なお、梵字の「梵」とは、仏教に関する事柄を表すが、古代インドの「バラモン」(バラモン教の僧侶のこと)がなまって「ボン」となったといわれている。字義は婆羅門国(インドの国をさす)の文字という意味であろうとされている。

2 どこかでよくみかけられるか

梵字は仏教関係でよく見かける。例えば、石仏、墓石、塔婆などである。塔婆は墓石の後ろに立てられる細長い板のことである。

その他の例としては、仏像、板碑、五輪塔、宝篋印塔、お札(祈願札)などがあげられる。

3 基本となる文字

基本となる文字は、摩多が十二字、別摩多が四字、体文が三十三字、重字が二字の合計五十一字である。

① 摩多 (また)

母音の字である。十二字ある。

摩多	読み方	異体字	摩多	読み方	異体字
ア	ア		ア	エ(エー)	▽
アー		ア	エー(アイ)		
イ	イ		オ(オー)		
イー		イ	オー(アウ)		
ウ	ウ		ア		
ウー		ウ	ア		

主な摩多の筆順

ア
エ
イ
ウ
ア
エ
イ
ウ
ア
エ
イ
ウ

※読み方は、台密系たいみつを採用した。()内は東密系とうみつである。

※異体字とは、「卒」の異体字が「卒」というように、同じ字でありながら形が違う字のことである。

《参考》以上の摩多十二字の他に、「別摩多」と呼ばれる特殊母音が四字ある。別摩多は一般には見かけない梵字で、雅語に慣用され、俗語には使用されないという。

主な別摩多の筆順

リ
リ
リ
リ

別摩多	読み方	異体字	別摩多	読み方
リ	リ		リ	リヨ
リー		リ	リヨ	

② 体文 (たいもん)

子音の字である。三十三字ある。

体文	読み方	異体字	体文	読み方	異体字
キ	キヤ・カ		カ	カ	
キヤ			カ		
ギ	ギヤ・ガ		ガ	ガ	
ギヤ			ガ		
シ	シヤ		サ	サ	
シヤ			サ		
ギヤウ			マ	マウ・マ	
ギヤ			マ		
ハ	ハ		ハ		
ハ			ハ		
ヤ	ヤ		ヤ		
ヤ			ヤ		

主な体文の筆順

キヤテ^レ瓦^ル ジヤ^テマ^スズ^ダウ^ム ハ^テマ^ル
 キヤ^クワ^ルワ^ル ニヤ^ウテ^レワ^ル タ^テイ^ル バ^テマ^ル ヲ^テマ^ル
 ギヤ^テマ^ルマ^ル タ^テマ^ル タ^テマ^ル マ^ウマ^ル シヤ^クワ^ルワ^ル
 ギヤ^ウマ^ルマ^ル タ^テマ^ル タ^テマ^ル マ^ウマ^ル シヤ^クワ^ルワ^ル
 シヤ^テマ^ルマ^ル ダ^テマ^ル ナ^ウマ^ルマ^ル ラ^テマ^ルマ^ル カ^テマ^ルマ^ル
 シヤ^テマ^ルマ^ル ダ^テマ^ル ナ^ウマ^ルマ^ル ラ^テマ^ルマ^ル カ^テマ^ルマ^ル

《参考》以上の体文三十三字の他に、切り継ぎの法則を使って、二つの体文の字を合成した「重字」と呼ばれる子音が二字ある。

重字の筆順

重字	読み方	重字	読み方
ラン	ラン	キシヤ	キシヤ

4 上点画 (てんかく)

体文(子音)三十三字に、摩多(母音)十二字の点画を添えて、三百九十六個の梵字が生まれる。

点画とは、体文に付ける摩多の符号といえる。点画は、摩多十二字の一つ一つに見られる。

①上点画の一覧表

次に、その点画(摩多点画)を紹介する。

摩多	読み方	点画	摩多	読み方	点画
ア	ア	□	エ	(エー)	□
アー	アー	□	エイ	(アイ)	□
イ	イ	□	オー	(オー)	□
イー	イー	□	オウ	(アウ)	□
ウ	ウ	□	ア	ア	□
ウー	ウー	□	ア	ア	□

※片仮名の「ン」は、摩多の「アン」の点画からきている。

②点画を添えた梵字の例

次に点画を添えて作られた梵字の例をあげる。

ア・「ラ」と「キャ」の例

ア	□	ラ	𑖀	キャ	𑖀
アー	□	ラー	𑖀	キャー	𑖀
イ	□	リ	𑖀	キー	𑖀
イー	□	リー	𑖀	キー	𑖀
ウ	□	ル	𑖀	ク	𑖀
ウー	□	ルー	𑖀	クー	𑖀
エ	□	レ	𑖀	ケ	𑖀
エー	□	レー	𑖀	ケー	𑖀
オ	□	ロ	𑖀	コ	𑖀
オー	□	ロー	𑖀	コー	𑖀
アン	□	ラン	𑖀	キャン	𑖀
アク	□	ラク	𑖀	キャク	𑖀

※「ク」と「クー」については、「キャ」の切付半体を参照のこと。

イ・五輪塔にみられる梵字

密教では、宇宙のあらゆる物質は地・水・火・風・空の五つから成り立っているとしている。これらの五つを「五大」といい、宇宙の元素であるといえる。

五輪塔では、これらを下から方形「四角形」(地輪)、円形(水輪)、三角形(火輪)、半円(風輪)、宝珠形(空輪)の順に積み上げられ、それぞれに梵字「ア」「バ」「ラ」「カ」「キャ」が刻まれている。詳しくは次の通りである。

五輪塔の 東側面	五輪塔の 南側面	五輪塔の 西側面	五輪塔の 北側面	空輪	風輪	火輪	水輪	地輪
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀
キャ	キャー	キャン	キャク	カ	カー	ラー	パー	ア
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀
カ	カン	ラン	ラク	バ	バン	ロー	パー	ア
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀
カク	カン	ラン	ラク	バク	バン	ロー	パー	ア
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀
カク	カン	ラン	ラク	バク	バン	ロー	パー	ア
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀
カク	カン	ラン	ラク	バク	バン	ロー	パー	ア

南側面・西側面・北側面の梵字は、東側面の梵字にそれぞれ点画を添えたものである。



※東側面の梵字は、点画を添える前の、体文である。

南側面の梵字は、体文に点画の「ア」を添えている。

西側面の梵字は、体文に点画の「ン」を添えている。

北側面の梵字は、体文に点画の「アク」を添えている。

5 切り継ぎ

次は、体文と体文とを組み合わせる新たな梵字を作り出す「切り継ぎ」の方法について述べる。

「切り継ぎ」とは、切り離れたものを互いに継ぐという意味である。体文同士を切り継ぎするときは、ある体文の上部の切継半体と別の体文の下部の切継半体をつなぎ合わせて新たな梵字を作り出す。それゆえ切り継ぎされて作られた体文は、上部と下部の二つの切継半体によって構成されている。切り継ぎされてできた二字合成字を「二合」といい、三字合成字は「三合」という。

① 切継半体の一覧表 (児玉義隆氏著「梵字必携」より)

体文	上部	下部	体文	上部	下部	体文	上部	下部
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀
𑖁	𑖁	𑖁	𑖁	𑖁	𑖁	𑖁	𑖁	𑖁
𑖂	𑖂	𑖂	𑖂	𑖂	𑖂	𑖂	𑖂	𑖂
𑖃	𑖃	𑖃	𑖃	𑖃	𑖃	𑖃	𑖃	𑖃
𑖄	𑖄	𑖄	𑖄	𑖄	𑖄	𑖄	𑖄	𑖄
𑖅	𑖅	𑖅	𑖅	𑖅	𑖅	𑖅	𑖅	𑖅
𑖆	𑖆	𑖆	𑖆	𑖆	𑖆	𑖆	𑖆	𑖆
𑖇	𑖇	𑖇	𑖇	𑖇	𑖇	𑖇	𑖇	𑖇
𑖈	𑖈	𑖈	𑖈	𑖈	𑖈	𑖈	𑖈	𑖈
𑖉	𑖉	𑖉	𑖉	𑖉	𑖉	𑖉	𑖉	𑖉
𑖊	𑖊	𑖊	𑖊	𑖊	𑖊	𑖊	𑖊	𑖊
𑖋	𑖋	𑖋	𑖋	𑖋	𑖋	𑖋	𑖋	𑖋
𑖌	𑖌	𑖌	𑖌	𑖌	𑖌	𑖌	𑖌	𑖌
𑖍	𑖍	𑖍	𑖍	𑖍	𑖍	𑖍	𑖍	𑖍
𑖎	𑖎	𑖎	𑖎	𑖎	𑖎	𑖎	𑖎	𑖎
𑖏	𑖏	𑖏	𑖏	𑖏	𑖏	𑖏	𑖏	𑖏
𑖐	𑖐	𑖐	𑖐	𑖐	𑖐	𑖐	𑖐	𑖐
𑖑	𑖑	𑖑	𑖑	𑖑	𑖑	𑖑	𑖑	𑖑
𑖒	𑖒	𑖒	𑖒	𑖒	𑖒	𑖒	𑖒	𑖒
𑖓	𑖓	𑖓	𑖓	𑖓	𑖓	𑖓	𑖓	𑖓
𑖔	𑖔	𑖔	𑖔	𑖔	𑖔	𑖔	𑖔	𑖔
𑖕	𑖕	𑖕	𑖕	𑖕	𑖕	𑖕	𑖕	𑖕
𑖖	𑖖	𑖖	𑖖	𑖖	𑖖	𑖖	𑖖	𑖖
𑖗	𑖗	𑖗	𑖗	𑖗	𑖗	𑖗	𑖗	𑖗
𑖘	𑖘	𑖘	𑖘	𑖘	𑖘	𑖘	𑖘	𑖘
𑖙	𑖙	𑖙	𑖙	𑖙	𑖙	𑖙	𑖙	𑖙
𑖚	𑖚	𑖚	𑖚	𑖚	𑖚	𑖚	𑖚	𑖚
𑖛	𑖛	𑖛	𑖛	𑖛	𑖛	𑖛	𑖛	𑖛
𑖜	𑖜	𑖜	𑖜	𑖜	𑖜	𑖜	𑖜	𑖜
𑖝	𑖝	𑖝	𑖝	𑖝	𑖝	𑖝	𑖝	𑖝
𑖞	𑖞	𑖞	𑖞	𑖞	𑖞	𑖞	𑖞	𑖞
𑖟	𑖟	𑖟	𑖟	𑖟	𑖟	𑖟	𑖟	𑖟
𑖠	𑖠	𑖠	𑖠	𑖠	𑖠	𑖠	𑖠	𑖠
𑖡	𑖡	𑖡	𑖡	𑖡	𑖡	𑖡	𑖡	𑖡
𑖢	𑖢	𑖢	𑖢	𑖢	𑖢	𑖢	𑖢	𑖢
𑖣	𑖣	𑖣	𑖣	𑖣	𑖣	𑖣	𑖣	𑖣
𑖤	𑖤	𑖤	𑖤	𑖤	𑖤	𑖤	𑖤	𑖤
𑖥	𑖥	𑖥	𑖥	𑖥	𑖥	𑖥	𑖥	𑖥
𑖦	𑖦	𑖦	𑖦	𑖦	𑖦	𑖦	𑖦	𑖦
𑖧	𑖧	𑖧	𑖧	𑖧	𑖧	𑖧	𑖧	𑖧
𑖨	𑖨	𑖨	𑖨	𑖨	𑖨	𑖨	𑖨	𑖨
𑖩	𑖩	𑖩	𑖩	𑖩	𑖩	𑖩	𑖩	𑖩
𑖪	𑖪	𑖪	𑖪	𑖪	𑖪	𑖪	𑖪	𑖪
𑖫	𑖫	𑖫	𑖫	𑖫	𑖫	𑖫	𑖫	𑖫
𑖬	𑖬	𑖬	𑖬	𑖬	𑖬	𑖬	𑖬	𑖬
𑖭	𑖭	𑖭	𑖭	𑖭	𑖭	𑖭	𑖭	𑖭
𑖮	𑖮	𑖮	𑖮	𑖮	𑖮	𑖮	𑖮	𑖮
𑖯	𑖯	𑖯	𑖯	𑖯	𑖯	𑖯	𑖯	𑖯
𑖰	𑖰	𑖰	𑖰	𑖰	𑖰	𑖰	𑖰	𑖰
𑖱	𑖱	𑖱	𑖱	𑖱	𑖱	𑖱	𑖱	𑖱
𑖲	𑖲	𑖲	𑖲	𑖲	𑖲	𑖲	𑖲	𑖲
𑖳	𑖳	𑖳	𑖳	𑖳	𑖳	𑖳	𑖳	𑖳
𑖴	𑖴	𑖴	𑖴	𑖴	𑖴	𑖴	𑖴	𑖴
𑖵	𑖵	𑖵	𑖵	𑖵	𑖵	𑖵	𑖵	𑖵
𑖶	𑖶	𑖶	𑖶	𑖶	𑖶	𑖶	𑖶	𑖶
𑖷	𑖷	𑖷	𑖷	𑖷	𑖷	𑖷	𑖷	𑖷
𑖸	𑖸	𑖸	𑖸	𑖸	𑖸	𑖸	𑖸	𑖸
𑖹	𑖹	𑖹	𑖹	𑖹	𑖹	𑖹	𑖹	𑖹
𑖺	𑖺	𑖺	𑖺	𑖺	𑖺	𑖺	𑖺	𑖺
𑖻	𑖻	𑖻	𑖻	𑖻	𑖻	𑖻	𑖻	𑖻
𑖼	𑖼	𑖼	𑖼	𑖼	𑖼	𑖼	𑖼	𑖼
𑖽	𑖽	𑖽	𑖽	𑖽	𑖽	𑖽	𑖽	𑖽
𑖾	𑖾	𑖾	𑖾	𑖾	𑖾	𑖾	𑖾	𑖾
𑖿	𑖿	𑖿	𑖿	𑖿	𑖿	𑖿	𑖿	𑖿

※切継半体の中で、「𑖀」(カ)「𑖁」(キヤ)の上部、「𑖂」(ニャウ)の下部、「𑖃」(ダウ)の下部、「𑖄」(ダ)の下部、「𑖅」(ヤ)の下部は、特別な形をとっている。

②切継半体を使った梵字の例
次に切継半体を使って作られた梵字の例をあげる。

- 「𑖀」(シヤ)の切継半体の上部と
𑖀 + 𑖀 ↓ 𑖀 (シヤラ)
- 「𑖁」(ラ)の切継半体の下部
𑖁 + 𑖁 ↓ 𑖁 (キヤラ)
- 「𑖂」(キヤ)の切継半体の上部と
𑖂 + 𑖂 ↓ 𑖂 (キヤラ)
- 「𑖃」(ラ)の切継半体の下部

③さらに点画を添えた梵字の例

シヤラ	シヤラー	シヤリ	シヤリー	シヤル	シヤルー	シヤレ	シヤレー
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀	𑖀
シヤロ	シヤロー	シヤラン	シヤラク				
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀				

6 種子

種子(しゅじ、しゅうじ)とは、如来や菩薩などの仏様の梵字やいろいろな事項を示す梵字を特に種子ともいう。例えば「キリーク」は、阿弥陀如来を表す梵字、つまり種子である。

①十三仏の種子

十三仏とは、死者の追善供養のために寺院に赴いておこなう法事(法要ともいい、死者の冥福を祈るために、その人が死んだ日と同じ日付の日の命日「めいにち」にする仏教の行事)に本尊として拝まれる十三の仏様たち。これら十三の仏様たちは、人が死亡してから七日目の初七日(しよなのか)の法事から数えて三十三年目の三十三回忌までの間にあがる合計十三回の法事にそれぞれ本尊として配当されている。次にそれらの十三仏とその種子を紹介する。

なお筆者は、十三仏を『ふしゃもんふ、じみ、やっかんせい、あみだ、あーだいこ』と、語呂合せて覚えている。

忌日(きにち、きじつ)	十三仏	梵字	読み方	成り立ち
初七日(しよなのか)	不動明王	𑖀	カーン	𑖀 + □ + □ + □
二七日(ふたなのか)	釈迦如来	𑖀	バク	𑖀 + □
三七日(みなのか)	文珠菩薩	𑖀	マン	𑖀 + □
四七日(しなのか)	普賢菩薩	𑖀	アン	𑖀 + □
五七日(いつなのか)	地藏菩薩	𑖀	カ	
六七日(むなのか)	弥勒菩薩	𑖀	ユ	𑖀 + □
七七日(ななのか)	薬師如来	𑖀	バイ	𑖀 + □
百ケ日(ひゃっかにち)	観音菩薩	𑖀	サ	
一周忌(いっしゅうき)	勢至菩薩	𑖀	サク	𑖀 + □
三回忌(さんかいき)	阿弥陀如来	𑖀	キリーク	𑖀 + □ + □ + □
七回忌(しちかいき)	阿閼如来	𑖀	ウン	𑖀 + □ + □ + □
十三回忌	大日如来	𑖀	バン、ア	𑖀 + □
三十三回忌	虚空蔵菩薩	𑖀	タラーク	𑖀 + □ + □ + □

※七七日(ななのか)とは、七かける七で四十九、つまり四十九日(しじゅうくにち)の法事のこと。一周忌は一年目の法事であるが、三回忌とは、「数え」で数えるので、二年目の法事のこと。同じく、七、十三、三十三もそれぞれ六年目、十二年目、三十二年目となる。

※大日如来は、金剛界の「バン」と、胎蔵界の「ア」とがある。

②二尊仏の種子

主な三尊仏をあげると次の通りである。

ア・阿弥陀三尊 イ・釈迦三尊 ウ・薬師三尊 エ・不動三尊

サ (観音)	マ (文珠)	ア (日光)	タラ (矜羯羅)
キリーク	バク	バイ	カーン
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀
サク (勢至)	アン (普賢)	シャ (月光)	タ (制吒迦)
𑖀	𑖀	𑖀	𑖀


※𑖀は本文の「シャ」、𑖀は𑖀+𑖀、𑖀は本文の𑖀+𑖀。

③ 金剛界五仏


[東]

 (ウン)
阿閼如来

[北]

 (アク)
不空成就如来

 (バン)
金剛界大日如来

[南]
 (タラーク)
宝生如来

[西]

 (キリーク)
阿弥陀如来

④ その他の他の主な種子

十一面観音菩薩

馬頭観音菩薩

青面金剛

 (キヤ)

 (カン)

 (ウーン)


8 光明真言こうみやうしんごん

光明真言とは、密教で唱える呪文の一つで、大日如来の真言である。真言とは、梵字で構成された一種の呪文のこと。この光明真言を唱えることと一切の罪が除かれるという。光明真言を唱えながら土砂を死者にかけてると、生前の罪がなくなるのである。次にその光明真言を紹介する。

(モ) (キヤ) (バイ)

(カー) (ム)

オン・ア・ボ・キヤ・ベイ・ロ・シャ・ナウ・マ・カ・ボ・ダラ・マ・ニ・



 (ハ) (ウーン)
ハン・ドマ・ジンバ・ラ・ハラ・バ・リタ・ヤ・ウン 「休止符」

 (ハ) (ウーン)
ハン・ドマ・ジンバ・ラ・ハラ・バ・リタ・ヤ・ウン 「休止符」



注2



注3

注4

①  (マー) と表記されたものがある。 注1 

②  や  (ベ)、  (ビ) と表記されたものがある。 注2 

③ 江戸期の遺物は  (ル) を用いている。 注3 

④ 江戸期の古い形では  (フ) と表記したものが多い。 注4 

⑤ 異体字の 、 、  が見られる。

⑥ 異体字の  が見られる。

9 大日如来の真言

光明真言を除く、大日如来の主な真言を二つあげる。

オン・バ・サラ・ダ・ト・バン ※「ダ」は、「カ」と「ト」
 (ター)
 ン・サ・ラ・ダ・ト・バン ※「ト」は、「イ」と「ク」

この終わりの「バン」を大日如来(金剛界)の種子とした。

(ウーン)
 ア・ビ・ラ・ウン・ケン

ア・ビ・ラ・ウン・ケン

この初めの「ア」を大日如来(胎藏界)の種子とした。

10 梵字の記号

梵字文の初めに置く記号	重字・重句の記号	読点(・)の記号	句点(。)の記号	文章の終わりに置く記号
ॐ	ॐ	く	々	卍

11 塔婆に刻まれた梵字

塔婆には主な例として次のような梵字が刻まれている。

キヤカ ラ バ ア バン オン バ サラ ダ ト バン

(表) 

(裏) 

バン ハラ ドバン オン ボツ キヤン シヤターン シリー
 バン ドバン ボツ シヤターン

《表》

キヤ・カ・ラ・バ・ア [「忌日の種子」]

オン・バ・ザラ・ダ・ト・バン [「休止符」]

ウ・バ・ダ・ダ・ウ・バ・ヤ

あるいは

オン・ア・ビ・ラ・ウン・ケン [「休止符」]

ウ・バ・ダ・ダ・ウ・バ・ヤ

《裏》

バン ハラ・ドバン オン・ボツ・キャン・シャター・ン・シリ ー [「休止符」]

※「ウ」は、「ハ」

※「ダ」は、「ダ」

※「バ」は、「バ」

※「ア」は、「ア」

※「イ」は、「イ」

あるいは、天台宗や浄土宗では、

《表》

キヤ・カ・ラ・バ・ア ダダ

キヤ・カ・ラ・バ・ア ダダ

(下段は天台宗のみ)

《表》

《裏》

バン ハラ・ドバン ダダ

バン ハラ・ドバン・ポロン

また、施餓鬼供養の時の塔婆には、

《表》

キヤ・カ・ラ・バ・ア ハラ オン サン・バ・ラ サン・バ・ラ ウン [「休止符」]

(ウー)

主な参考文献

児玉義隆氏著「梵字必携」(朱鷺書房)

徳山暉純氏著「梵字の書き方」(木耳社)

種智院大学密教学会編「梵字大鑑」(名著普及会)

※この冊子をまとめるにあたっては、特に児玉義隆氏著の「梵字必携」の内容に負うところが大きく、梵字はこの書物の字体をそのまま利用した。